

# 職員室から・・・

2008, 10, 29

新潟青陵幼稚園 加藤由美子

「園長先生、お客さんになってください！」と白ばらさんのA君とB君が職員室に呼びに来てくれました。何があるのか聞かなかったのですが、お誘いが嬉しくて、ふたりの後について行きました。

白ばらさんのドアのところには畳が立てられていて、CちゃんとDちゃんが立っています。そこから入るのかとおもっていたら、「ここは窓で～す、あっちから入ってください～い」なるほど“窓”本当に窓らしいつくりです。二人は窓から外を見ていたのです。

さて、入り口から入っていくとテーブルと椅子があり、テーブルの上には、細長いかごにスプーンが入っています。どうやらレストランのよう……だれもどうぞと言ってくれないので（年中さんは、まだ自分の役割に夢中ですから、まだお客さんに気を使うまでは至っていないようです。年長さんはお客さんを気遣うことができますが・・・）私が「ここに座ってもいいですか？」と聞きますと、「いいですよ～」とEちゃん、椅子に座って待っていると、エプロンをしたF君猫が、「ここには猫がいるんだよ～にゃ～」と教えてくれました。キッチンでは、Gちゃんシェフがエプロンをして、お鍋に松ぼっくりを入れてスプーンでかき混ぜて、そしてフライパンにも松ぼっくりを入れて炒めています。黙々と料理をしているFちゃん……いったい、いつ料理が出てくるのかと思ったくらい“黙して語らず”のシェフ！でもね、きちんと料理しているからこそ、簡単には出てこないのです。レンジでチンして出てくるファーストフードとは大違いなのです。白ばらさんくらいになると自分のイメージがありますから、なんでもいからお茶碗にいれて、はいどうぞ、にはならないのです。これも成長の姿です。Gちゃんが、籠をHちゃんに差し出して、「どんぐりもらってきて、男たちから・・・」Hちゃん「男たちから……？くれるかな～？」と言いつつ、隣のお家の“男たち”からどんぐりもらってきて、「はいっ」と渡しました。さすが！Hちゃん、こんなことあさめしまえ！

さて、Gちゃんは、Hちゃんにもらった材料を料理してお皿にきれいに盛り付けました。そして私のテーブルにお料理を黙って差し出しました。プロは、無口なのです！おおきなお皿の真ん中には大きめの松ぼっくり、その周りには小さめの松ぼっくりが並び上からどんぐりとかぼちゃの種がかけられています。とってもきれい！よく考えられたお料理です。それから、デザートも小さめの器に小さめの木の実が入っていて可愛いです。子どもたちが作ったお料理は本当にきれいで可愛いのです。いろんな色の羊毛の小さな玉がぐるりとお手玉を囲んでいたり、盛り付けがとても上手です。私よりセンスがいい。

「いただきます」と食べようとする、ジ～っとならぬ視線が……できるだけ丁寧に食べて、ご馳走様をしました。シェフは食べ終わったのを見届けると、また、黙々と料

理を続けました。畳でしきった窓から外を見ていたCちゃんとDちゃんが窓の下にいるAちゃんとBくん相手に「ここは窓だよ、入っちゃだめだよ～」「アハハハ・ウフフ」とやり取りを楽しんでいます。

さて、「これ、取り皿です」とEちゃんが持ってきました。しばらくすると、フライパンに入った焼きたての“ぼっぼやき”（カプラ）をだしてくれました。甘くて美味しいぼっぼやき、久しぶりで、美味しかった！EちゃんとDちゃんはお皿洗いをはじめました。スポンジ（お手玉）片手に、お皿をごしごしごしごし、くるっとお皿をかえしたり、手つきがまるでお母さんのよう……いい手つき！保護者の皆様、よ～く見られてしっかり真似されていますね。

この間、他の遊びをしていた男の子たちが、自分の描いた絵をあげると持ってきたり、どんぐりを使っていいよといって何とか仲間に入ろうとしているのですが、レストランのスタッフたちは「絵いらない！」「どんぐり？あ、もらう」という感じでなかなか仲間入りのきっかけをつかめないでいました。「絵、いらない」と言われたJ君は、担任に訴えに行きました。がんばれ！男の子！次はフィーリングがぴたり来るように、もう少し違う手を考えようね。

しばらくすると、赤ばら2組の担任とKちゃん、Lちゃん、Mちゃんがきました。なんだか面白そうと、廊下で様子を見ていたらしい赤ばらさん、担任と一緒に入れましたね。赤ばらさんの姿を見ると、レストランスタッフはお料理に集中し始め、どこに座ったらいいの？と言う問いかけにも答える人がいません。目の前にある小机に座ろうとしたら、「ここは、レジで～す」と言われて困った赤ばらさん。私は席を赤ばらさんに譲って退席……部屋の中で他の遊びをしていた子どもたちも、ちらちらとレストランの様子を見ながら遊んでいました。きっと、この遊びを心の中に取り入れていたことなのでしょう。これが消化されて、今度は自分の遊びに生かされてでできます。学びあう子どもたちです。

レストランの子どもたちはそれぞれの役割を認めながら、自分のやりたい役をしていました。ウエイトレスやレジ係はいないのです。こういういろいろな役割が必要なことに気づいてお互いに話し合いをして分担することが出来るようになるには、もう少し時間が必要ですね。自分で経験して、気づいて、自分で考えて、遊びを進めていく、こういう経験を子どもたちは育っていきます。

ところで、保育者が、子どもの遊びにはいって、レジ係はいないの？とか、メニューはないのですか？などと、必要なものや必要な役割があることを教えてあげようとする、子どもたち自身の学びがなくなってしまうのです。ですから、私たち保育者は、子どもたちの想像の世界を壊さない様に、必要最低限の言葉だけにして、子どもたちの世界をそっと思守っています。子どもたちが想像の世界でゆったりと遊べますように！